

平成 30 年度健康実態調査の結果について（概要）

1. 調査の目的

平成24年9月に「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」が施行され、「カネミ油症患者に関する施策の推進に関する基本的な指針」（厚生労働省・農林水産省告示）に基づき、カネミ油症患者の生活習慣、病状、治療内容等について把握し、カネミ油症に関する調査研究を更に推進することを目的とする。

2. 調査期間

平成30年4月～8月末

3. 調査対象及び回答者

各都道府県で把握している1,588人の認定患者（平成30年3月31日時点の調査対象見込者数、前年度1,588人）のうち、死亡や所在不明の方、非協力の意向を示された方等を除いた1,411人（前年度1,425人）から回答を得た。

4. 調査項目

平成20年度に厚生労働省が実施した油症患者に係る健康実態調査の調査項目を元に、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）で、カネミ油症患者の意見を聞きつつ決定した生活習慣、健康状態や悩み、治療状況、これまでにかかったことのある病気・症状などの項目を調査した。

5. 調査結果の活用

調査結果については、アンケートに基づく調査の医学的・科学的解釈の限界に留意しつつ、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、過去の健康実態調査及び過去の検診結果等と併せてより詳細な解析を行い、翌年度以降の健康実態調査項目などカネミ油症に関する調査研究に活用される予定である。

6. 調査結果の概要

(1) 性別

- ・男性 666 人（前年 676 人）、女性 745 人（前年 749 人）

(2) 年齢

- ・平均年齢は66.1歳（前年度63.7歳）、年齢不詳は女性1名のみであった。
男性65.1歳（前年度61.8歳）、女性67.1歳（前年度65.7歳）
- ・男性は、「55～59歳」の方が18.3%（前年度17.5%）と最も多く、次いで、「60～64歳」が18.0%（前年度15.8%）、「50～54歳」が14.1%（前年度14.8%）等の順であった。

- ・女性は、「55～59 歳」の方が 17.0%（前年度 16.7%）と最も多く、次いで、「60～64 歳」が 14.9%（前年度 14.4%）、「50～54 歳」が 12.8%（前年度 13.0%）等の順であった。

(3)生活習慣について

- ・1 日の歩行時間についてみると、「90分以上」と回答した方が 28.7%（前年度 30.8%）と最も多く、次いで、「30分～60分未満」が 28.1%（前年度 25.5%）、「30分未満」が 24.2%（前年度 23.6%）等の順であった。
- ・運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した方が 46.4%（前年度 46.0%）と最も多く、次いで、「週2～4回程度」が 20.3%（前年度 20.8%）、「ほぼ毎日」が 14.7%（前年度 15.2%）、「週1回程度」が 12.9%（前年度 12.8%）等の順であった。
- ・飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した方が 33.5%（前年度 33.7%）と最も多く、女性では「飲まない」と回答した方が 70.1%（前年度 70.9%）と最も多かった。
- ・喫煙状況についてみると、「吸わない」と回答した方が男性 37.5%（前年度 37.3%）、女性 83.9%（前年度 85.0%）ともに最も多かった。
- ・労働時間についてみると、「4時間未満」と回答した方が 33.5%（前年度 30.6%）最も多く、次いで「8時間以上9時間未満」が 14.7%（前年度 18.6%）、「10時間以上」が 11.8%（前年度 11.9%）等の順であった。
- ・野菜摂取量についてみると、「70g以上140g未満」と回答した方が 32.7%（前年度 32.8%）と最も多く、次いで、「140g以上210g未満」21.7%（前年度 23.1%）、「70g未満」17.6%（前年度 17.7%）等の順であった。
- ・果物類摂取量についてみると、「50g未満」と回答した方が 50.3%（前年度 48.4%）と最も多く、次いで、「50g以上100g未満」26.7%（前年度 29.1%）、「100g以上150g未満」15.7%（前年度 15.0%）等の順であった。
- ・常用しているサプリメント・健康食品・漢方薬の有無についてみると、17.8%（前年度 17.3%）が「ある」と回答した。

(4) 健康・悩み・ストレスについて

- ・日常生活での悩みやストレスについて、「ある」と回答した方は 73.1%（前年度 71.9%）であった。また、「ある」と回答した 1,032 人（前年度 1,025 人）を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因（1 つ）を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が 350 人（33.9%）（前年度 316 人（30.8%））と最も多かった。
- ・睡眠時間についてみると、「6 時間以上 7 時間未満」と回答した方が 33.7%（前年度 34.6%）と最も多く、次いで、「5 時間以上 6 時間未満」が 23.8%（前年度 23.1%）、「7 時間以上 8 時間未満」が 18.0%（前年度 20.7%）等の順であった。
- ・睡眠時間のとれている度合いについてみると、「寝付き（布団に入ってから眠るまでに要する時間）に、時間がかかった。」と回答した方が 29.5%と多く、次いで、「夜間、睡眠途中で目が覚めて困った。」が 24.0%、「上記 1～6 のようなことはなかった。」が 18.1%等の順であった。

※当項目は設問内容が前年度と異なるため比較は行っていない。

- ・座っているとき、または横になっている間に脚に不快な感じ、または感覚についてみると、「はい」と回答した方は 46.1%であった。
- ・座っているとき、または横になっている間に脚を動かす必要性、または動かしたい衝動についてみると、「はい」と回答した方は 38.3%であった。
- ・座っているとき、または横になっている間に脚に不快な感じ、または感覚について「はい」、または座っているとき、または横になっている間に脚を動かす必要性、または動かしたい衝動について「はい」と回答した 697 人を対象に、休んでいるとき（座っているとき、または横になっているとき）と、体を動かしているときのどちらでこのように感じやすいかについて質問したところ、「両方」と回答した方が 294 人（42.2%）と最も多かった。

※当項目は今年より追加した。

(5) 介護や日常生活動作の状況について

- ・病院や診療所への入院、介護施設への入所状況についてみると、6.2%（前年度 6.4%）の方が入院中若しくは入所中であった。
- ・要介護認定の状況についてみると、40 歳未満の回答者を除いた 1,410 人（前年度 1,425 人）、男性 666 人（前年度 676 人）、女性 744 人（前年度 749 人）のうち、12.3%の 173 人（前年度 161 人）、男性 57 人（前年度 51 人）、女性 116 人（前年度 110 人）の方が要介護認定を受けていた。
- ・また、要介護認定を受けている方（173 人）に現在利用している介護サービス（当てはまるものすべて）を質問したところ、「通所介護（デイサービス）」が 27.8%（前年度 39.8%）と最も多く、次いで「ホームヘルパーの訪問介護・訪問看護」が 24.3%（前年度 21.7%）等の順となっている。

(6) この1年間の治療状況について

- ・現在の受診頻度についてみると、「毎月1〜3回程度」が48.4%（前年度47.2%）と最も多く、次いで「数か月に1回程度」が26.3%（前年度25.6%）等の順であった。
- ・医師の処方により継続して飲んでいる（塗っている）薬があると回答した方は、996人（70.6%）（前年度970人（68.1%））で、男性446人（67.0%）（前年度435人（68.1%））、女性550人（73.8%）（前年度535人（71.4%））であった。

(7) 油症患者受療券の所持について

- ・油症券の保有状況についてみると、油症券を持っていると回答した方は909人（64.4%）（前年度923人（64.8%））で、男性412人（61.9%）（前年度424人（62.7%））、女性497人（66.7%）（前年度499人（66.6%））であった。
- ・油症券を持っていると回答した方は909人のうち550人（60.5%）（前年度579人（62.7%））が、この1年間、油症券を使用せずに受診した経験があり、うち71人（12.9%）（前年度150人（10.5%））が「油症券の使用を希望する医療機関がある」と回答した。

(8) 油症検診について

- ・油症検診の昨年度の受診状況についてみると、受診したと回答した方は、510人（36.1%）（前年度523人（36.7%））であった。また、受診していないと回答した890人（63.1%）（前年度886人（62.2%））を対象に、受診しなかった理由を質問したところ、「仕事などで都合がつかなかったから」と回答した方が297人（33.4%）（前年度294人（33.2%））と最も多かった。

(9) 相談体制について

- ・油症相談員や都道府県の相談窓口への相談状況についてみると、相談したことがあると回答した方は、183人（13.0%）（前年度184人（12.9%））であった。また、相談したことがないと回答した1,211人（85.8%）（前年度1,215人（85.3%））を対象に、今後利用したい、または利用することが考えられる相談内容を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が671人（55.4%）（前年度702人（44.1%））と最も多く、次いで「家族の病気や介護」が91人（7.5%）（前年度298人（18.7%））、「収入・家計・借金等」が28人（2.3%）（前年度131人（8.2%））、「家族又は家族以外との人間関係」が17人（1.4%）（前年度64人（4.0%））の順となっている。

(10) 罹患と治療状況について

今回初めて回答する方（22人）を対象に、これまでかかったことがある病気等の状況を調査したところ、

- ・これまでかかった悪性腫瘍（がん）については、1人のみが「大腸がん」と回答した。
- ・これまでかかった脳・精神・神経の病気・症状については、医療機関で治療中の中で「脳梗塞」「頭痛」それぞれ1件（4.5%）であった。
- ・これまでかかった自律神経系の症状については、「医療機関で治療中」は「過敏性腸症候群」1件（4.5%）であった。「症状はあるが治療していない」は「起立性低血圧」「過敏性腸症候群」「不眠」「不安神経症」がそれぞれ1件（4.5%）であった。
- ・これまでかかったのど・気管支・肺の病気・症状については、「せき」が3件（5.4%）と最も多かった。

過去に回答したことがある方（1,371人）を対象に、前回の回答以降にかかった病気等の状況を調査したところ、この1年間に新たにかかった病気については、「かぜ」が49人（3.6%）で最も多く、続いて「高血圧症」が22人（1.6%）、「肺炎」が21人（1.5%）と多かった。また、これらの方々に現在の治療状況を確認したところ、「医療機関で治療中」と回答のあった方が266人（64.1%）と最も多かった。

(11) 自由記載欄について

本調査では、「これまでの症状や病気について、書ききれなかったことや、特に研究してほしいこと、要望など」について自由記入欄を設けたところ、251人（前年度227人）から回答があった。

※主な記載内容

- ・自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について156件（前年度155件）
- ・職業（仕事）に関する苦勞について4件（前年度5件）
- ・経済的な苦勞について7件（前年度8件）
- ・治療法の研究開発への要望、期待36件（前年度27件）
- ・病院、医師、検診に関する要望16件（前年度13件）
- ・行政機関に対する要望39件（前年度14件）
- ・カネミ倉庫に対する要望7件（前年度7件）
- ・その他26件（前年度3件）